

# 地域連携活動

## 学生同士の交流や連携の本格化に向けて

### 「札幌大学・鹿児島国際大学・松本大学 三大学学生交流課題研究会議」

#### 検討準備会を開催

松本大学 学長 菅谷 昭

去る12月20日、本学において「三大学学生交流課題研究会議」検討準備会が開催されました。あくまでも準備の段階であり、今後本格的に議論していくものです。札幌大学・鹿児島国際大学は、これまで松本市(行政)との観光・文化関連の都市協定を継続している地に所在していることから、今回、そのネットワークを生かして両大学を紹介していただき、開催が実現しました。

本会議の構想は、国内の地方大都市に所在する大学との学生同士による交流や連携の促進を図り、地域的ならびに社会的な多様な課題に対し、教育研究機関である大学がどのように対応しているのかを学生の立場で討議し、今後に向けより効果的かつ実践的な方策等を研究するものです。学生の見識や視野を広める目的を持ち、学生主体の地域課題探求の機会とするねらいがあります。

三大学が一堂に集まる意味とは、列島縦断という地理的には北と南、中央に位置し所在地的に大きな違いを持っており、異なる環境の中から共通した地域的、社会的課題を学生が共有することは、広い視野や多様な見識につながるのではないかと期待するものです。反面、経費はかかるので一年一回の開催で、持ち回りにより各地で開くなど、具体的な学生交流の姿まで議論することができました。



## 地域づくり考房『ゆめ』

### 1年を振り返って ～ 地域の人々のつばやきを大切に ～

地域づくり考房『ゆめ』 専門員 大野 整

学生が無我夢中で地域活動をするひたむきな姿に頭が下がります。今年は活動制限が続いたため、そのような場面がなかなか見られずに中止や延期が繰り返されました。その点では多くの活動がいったん立ち止まることで所期の目的と在り方を考える年になりました。今はそれも大切な一年であると受け止めています。『ゆめ』では前例踏襲の活動は行わずに、毎年自分らしい活動をするに拘ってきました。学生が活動を始めると「地域の方々を助けて役に立ちたい」という気持ちが強くなる場合があります。ところがそのよう



茶房「ひといき」にて学生が地域の方々と談笑

な「やってあげる」という意識は活動の壁になることが多いのです。そこで、「学生はそもそも地域に迷惑をかける存在だ、地域の方々から育ててもらうのだ」という本学の白戸洋教授(観光ホスピタリティ学科)の言葉を紹介すると学生の意識が変わります。「地域の人たちから教えを請う」というような姿勢で臨むようになると地域から初めて本音が出てきます。

『ゆめ』の活動には「福祉、平和、食、農業、居場所、子育て」など様々な視点があります。しかし学生は、地域の中で共に暮らす仲間としての存在であり支援者ではありません。地域の方々から「怒られたり、相談されたり、心配されたり」そのような場面が見えるようになると、本当の地域活動が始まります。地域の人々の本音から生まれるつばやきの中にヒントがたくさん埋もれています。それを宝として掘り出して磨くことのできる学生がこれからも巣立つことを願っています。

## 学びの風景 地域とともに

地域をフィールドにした実践的な学びをご紹介します。

### 株式会社デリカ社長から地域企業のDX化について学ぶ

総合経営学科 教授 兼村 智也

1月17日、兼村ゼミ・清水ゼミ(総合経営学科3年生23名)の「専門研究」では、松本市内の農業機械メーカーである株式会社デリカの金子孝彦社長より同社のデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みについてのお話を伺いました。

業務全体をITで繋げるDX化は、その一体化・同期化・可視化を進め、業務の効率化、企業の生産性向上をもたらします。そればかりか、人手不足の解消や賃金の上昇にもつながり、地域経済にも効果を及ぼすものとして大きな期待が集まっています。その一方、地域の中小企業のDX化は進んで

いるとは言えない状況にあります。そうしたなか、一早い取り組みをみせる同社の導入経緯や理由、具体的な取り組み、それを推進する人材などについてお話を伺いました。また学生の方からの質疑応答にお答えいただき、企業にとってDX化とはどのようなことなのか、どのような効果が上がっているのかなど実態に触れることで、その重要性への理解も深まったものと思います。参加学生の多くは近い将来、地域企業に就職することになりますが、こうした経験を活かし、そこでのDX化推進に是非、貢献してもらえればと思います。



本来ならばアウトキャンパス・スタディとして学生を連れて同社を訪問させていただく予定でした。学校での読み書きだけでなく、実際に「企業現場」で見聞きするのは貴重な学習機会となります。しかし、この2年間、こうしたこともできず、感染状況が収まってきた今がチャンスと考えておりましたが、近々の再拡大に伴い、急遽、オンラインでの開催になりました。そうした変更がありながら、ご協力いただき、また学生にもわかりやすくお話しいただきました。株式会社デリカ・金子社長にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。